

# 横浜市立羽沢小学校

## 平成26年度 学力向上アクションプラン

### 1 学校の状況と地域の実態

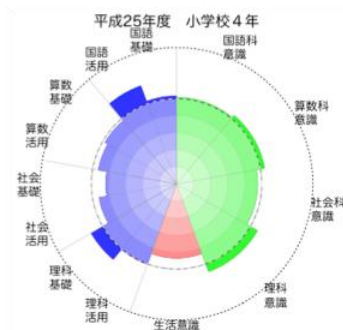
- (1) 「羽沢小スタンダード」を活用して学習や生活に関するルールの定着を目指す取り組みや、中学校ブロックで取り組む児童指導の充実により、児童が落ち着いて学習できる環境が整いつつある。
- (2) 中学校ブロックでの授業研究や、中学校教員による乗り入れ授業、高学年の教科担任制、中学年の少人数指導などの取り組みにより、学習意識や生活意識の向上が見られる。学力もわずかながら、市の平均に年々近づいている。
- (3) 今日的な課題についての校内研修の実施により、教師の危機対応能力、児童指導力、授業力の向上を図ってきた。また、メンターチームの充実により、若手職員の指導力の向上を図ってきた。
- (4) 家庭との連携により、子どもたちの家庭での学習習慣の定着が進みつつあるが、読書教育の質と量の向上や、家庭学習の質の向上を連携して図っていく必要がある。
- (5) 見守り隊や、図書ボランティアの活用など、地域の人材の力を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域の連携を図っている。

### 2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

#### 学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 子どもが人と交流することを通して学ぶ喜びを味わい、主体的に学ぼうとする意欲が育つ授業づくりを進めます。
- 授業のユニバーサルデザイン化と個に応じた学習を推進し、子ども一人ひとりの学びを大切にします。
- 家庭学習・読書活動の推進について、家庭と協働して取り組みます。

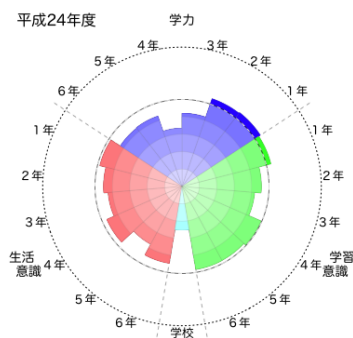
### 3 横浜市学力学習状況調査等からの平成26年度の実態把握



#### (1) 教科学習における経年変化の状況と要因の分析

国語と算数の学力は、低学年を中心に向上がみられた。国語では「言葉の特徴や決まり」「文字に関する事項」の力が向上した。めあてに沿って読み書きをしたり、話し合ったりする力をつけていくことが課題である。算数では、低学年で知識や技能が向上した。問題解決学習を通して、自分の考えを数や式、言葉などで説明する力を高めていくことが課題である。

社会、理科の学力は横ばいである。みんなで話し合ったり、考えたことを発言したりする力は身に付きつつある。わかったことを自分の知識として、次の学習や生活に生かしていく力を高めていくことが課題である。



#### (2) 学力の概要と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

「勉強が好き」と感じる児童が増え「よくわかる」「だいたいわかる」という児童も多くなった。授業力向上の取り組みの成果と考えられる。

「話したり聞いたりして、人とかかわることが好き」という児童ほど、教科学力が高い傾向がある。人とのかかわりの中で学習を進めることが、思考力や表現力を高めることにつながっていると考えられる。

「朝食は毎朝必ず食べる」という児童は、教科学力が高い傾向がある。生活リズムを整え、健康な生活を送ることが、学力を高めることにつながると考えられる。

朝読書や読書習慣など、読書指導の充実により「1日に読書をする時間」が増えている。読書量と教科

学力との間にも相関関係がみられる。

家庭学習について共通理解を図りながら取り組み、家庭における学習習慣の定着を心がけた。家庭における学習時間が確保される傾向にあるが、一層の充実を図ることが学力向上につながると考えられる。

## 4 平成26年度 目標と具体的方策

### 平成26年度 目標

### わかる・できる楽しさが味わえる授業の実現

#### (1) 学校組織としての共通の取組

##### ○ 言語活動の充実

子どもが人と交流する活動の中で、言語活動を充実させ、互いに認め合う場面を増やし、自尊感情の育成を目指すとともに、主体的に学ぼうとする意欲を高めていきます。

##### ○ 「わかる・できる」授業づくりの推進

一人ひとりの学びを大事にし、授業のユニバーサルデザイン化や個に応じた学習を推進します。

##### ○ 読書活動の充実

学校だけでなく、家庭にも協力してもらいながら多様な読書活動の場を設け、子どもの読書意欲が向上できるように取り組んでいきます。

#### ○ 言語活動の充実

##### 1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

##### 2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確かめたり、関連した情報を提供したりしながら話し合う。

##### 3 学年

- 理科や社会科等で観察したり、調査したりしたことを絵や写真とともに記録したり、説明したりする活動を大切にする。
- 自分の考えをもち、理由や根拠を尋ねたり、感想を述べたりしながら交流する機会を増やす。
- 既習を生かし、自分や友達の考えをつなげて深める学習を計画的に行う。

##### 4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
- 反対の意見をだしたり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合う。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に行う。

##### 5 学年

- 総合的な学習等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。

##### 6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話合いをする場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを行う。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。